



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2020・2 第157号



今年は暖冬そのもので、1月末だというのに4月上旬並みの気温になった日もあります。豪雪地帯といわれている山形県の村山地方に行きましたが、全く雪がなく、地元ではかなり戸惑っておられました。地球温暖化の影響は、このようにして具体的な現象として表れて来ているのでしょうか。

「春霞 たてるやいづこ みよしのの 吉野の山に 雪はふりつつ」(よみ人知らず)と詠われるごとく、寒さはまだまだ続いておりますが、暦の上では立春を迎えましたというのが常套句になっています。しかし、今年は文字通りの立春の陽気となり、「鬼は外、福は内、鬼はこっそり逃げていく」の豆まきが各地で行われました。関東では成田山がひときわ有名で、お相撲さんや市川海老蔵を始めとして有名人勢ぞろいの華やかさですが、下妻市の大宝八幡宮でも盛大に豆まきが行われました。豆を拾うには、前に陣取らなければいけないことが良くわかりました。後方までには豆が落ちてこ

ないのです。しかし、ここでは小学生以下の子供達と大人が分けられていて、豆を拾えた子や拾えなかった子も含めて、全員に詰め合わせのお菓子が配られており、非常に心が和みました。私が幼少の時にも豆まきを行っていました。大豆の枝を削った先にイワシの頭をつけて、出入口の各所に立てかけました。これは邪気を払う門守りの意味があるとかです。豆は数え年の数だけ食べました。立春を一年の始まりと考えれば節分は大みそかに当たります。それで翌年も健康でいられますようにと願って、満年齢よりも一つ多い数え年の豆になったのでしょうか。



最近ではあまりお目にかからなくなりましたが、上棟式では紅白の餅を撒く習慣があります。また5円硬貨やたまには50円硬貨の穴に、こよりをつけて撒かれる事もあります。これは棟上げに至った喜びと今後の無事故を願っての事なのかと思います。以前、盛岡の手作り村で南部曲がり屋の移築の棟上げに遭遇し、紅白の餅をゲットした事がありました。やはり福のおすそ分けを頂けることは嬉しいものです。上棟式では幣束(ハイグシ)を立て破魔矢、五色の吹き流しなどで飾り付けをします。米国などでもこのような上棟式があり、トッピングアウトセレモニーとか言われています。最後の梁を組み合わせる際に、色とりどりのリボンや常緑樹の枝などでの飾り付けを行います。洋の東西を問わず同じ風習があるのは、ヒトのDNAに深く組み込まれているからなのでしょう。春夏秋冬の季節ごとの行事や節目ごとの慣習はそれぞれに意味があり、コミュニケーションを図るうえでも大事なものです。

上棟は建前ともいわれていますが、本音と建前なんて言い訳のツールにしようなどとしてはいませんか？

さて、ニッサンメールマガジン第157号をお届けします。

乳牛における乾乳期のヒートストレスが生産性に及ぼす影響

乳牛で乾乳期の全期間にわたるクーリングは、分娩後の暑熱ストレスの感作を低減させることが知られています。しかしながら、短期間（例えば乾乳前期あるいは後期だけ）のクーリングの効果については、あまりよく知られていません。そこで乾乳前期、後期および全期間のクーリングが、分娩後の生産性に及ぼす影響について解析しました。乳牛はフルタームの期間搾乳して、分娩予定日の45日前に乾乳したものを選びました。乳牛は前産次の305日乳量、産次、体重などを考慮して区分しました。そしてクーリング（CL）（日よけ、ファン、屋根への水噴霧）とヒートストレス（HT）（日よけだけ）の処置に群分けをしました。

最初の3週間はHTにして、その後は分娩までCLしたCL群とその逆の処置をしたHT群の直腸温は、乾乳前期でそれぞれ38.8℃、39.1℃となり、呼吸数はそれぞれ52.9回/分、70.5回/分となり、乾乳後期でも同様にHT群が高い傾向にありました。乾乳前期の乾物摂取量はHT群で少なくなりましたが、乾乳後期では差が認められませんでした。ヒートストレスを処置した群では、その時期を問わず、全期間クーリングした群に比べて分娩間隔は延長しました。乾乳期間中にヒートストレスを受けると、その時期に関係なく約4日間早く、分娩を迎えました。体重の変動はHT群とCL群に差はありませんでしたが、乾乳全期間をクーリングした群に比べて体重減少は大きくなりました。乾乳前期あるいは後期にクーリングした群の乳量は3週目までの効果がありましたが、乾乳全期間をクーリングすると30週まで、乳量増加の傾向がありました。以上のことからヒートストレスは、乾乳の時期を問わず、分娩後の生産性を低下させることが明らかとなりました。（T.F.Fabris et al. 2019）

オレガノオイルは薬剤耐性を減少させる効果があるか？

オレガノエッセンシャルオイルは子牛の薬剤耐性を減少させることに役立つようである。英国リーディング大学の研究によれば、子牛の飼料にオレガノオイルを混入したところ、第4世代セファロスポリン抗生物質に抵抗性を示す大腸菌数を減少させたと報告しています。乳雄子牛に10日間、オレガノオイルを添加したものと無添加の牛乳を飲ませ、その後は両群ともに離乳時まで、無添加の牛乳を飲ませました。その結果、糞便中において薬剤耐性のある大腸菌の出現率は添加群12.6%でしたが、無添加群では44.1%に認められ、その差は有意でした。オレガノオイルはセファロスポリン抵抗性大腸菌のそのものを抑え込むだけでなく、その発現を減少させるように作用しているものと推察されています。飼料中にオレガノオイルを添加して安定的に効果を発揮するかどうかは、今後の大きな課題となっています。薬剤耐性の点から抗生物質の使用が制限される中で、このような研究が増えてくると考えられますので、注視したいと思います。

初乳給与のための用具類は清潔に保ちましょう！

初乳を取り扱うに際して、すべての用具類が清潔であることが必須です。バケツ、ボトル、乳頭、さらには搾乳牛の乳頭も清潔にしましょう。新生子牛の哺乳前後に関して、以下のような要点を守りましょう。

1. 初乳取り扱いの手引書の作成：従業員などを雇用している場合、基準となる手引書があれば、無理なく作業が進められます。
2. 前洗浄には加温していない水を用います：熱湯を使うとタンパク成分がボトルなどの表面に固着してしまいます。



3. 用具類は熱い次亜塩素酸水に浸漬します：細菌数が減少できます。
4. 用具類の高圧洗浄：残っている病原細菌などを取り除くことができます。
5. 冷水での洗浄
6. 酸性水での2回目の洗浄：pH 2～3での酸性水の洗浄は、有機物の除去に有効です。
7. 用具類の乾燥：用具類は完全に乾燥させます。可能であれば、ハエなどの事も考えて乾燥機を使いたいものです。

初乳の取り扱いは子牛に健全性を保つために大きな役割があります。どのような子牛の哺育・育成法がとられようと、初乳の品質を適正に保って給与することが、最も基本となります。

お知らせ

印刷用の PDF ファイル

印刷用にPDFファイルを添付しました。PDFファイルをご利用いただくためには、Adobe Readerが必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしくお願いします。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。

QR コード

このメールマガジンを紙媒体でお読みの方が、容易に[当社のウェブサイト](#)のトップページにアクセスできるようにQRコードを添付しました。

